

新潟市水族館指定管理者
2019 年度事業計画書

※ 事業やショープログラム等については、名称・内容・実施時期等は案であり、変更する場合があります。

1 施設の管理・運営に関する業務

(1) 基本姿勢

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」「新潟市水族館の管理に関する年度協定書」に従い、「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」及び、その他「新潟市水族館の管理運営業務を遂行する上で関連する法規」を遵守し、新潟市の示す「新潟市水族館の基本的使命」の具現化に向けて業務を推進します。

業務に必要な専門的知識や技能・資格等を備えた職員を配置し、平成2年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、「安全・安心の確保」「安定した施設運営」を心掛け、効果的かつ効率的な管理運営を行っていきます。多くのお客様に来ていただけるような魅力ある事業を展開し、サービスを徹底していきます。

(2) 入館者・入館料収入

「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」に則り、適正に入館料徴収事務を行っていきます。2019 年度の入館者数及び入館料収入の目標値は下記のとおりです。

	目標値	目標値の設定根拠
入館者数	526,000 人 以上	新潟市 2019 年度当初予算（端数整理）
入館料収入	473,820 千円 以上	

工夫・改良をしながら水族館の魅力を最大限に発揮し、充実したサービスを提供し、目標値に達するよう努めます。常におもてなしの心を持ち、「来てよかった、また来たい」と感じてもらえるようなサービス提供を心掛け、リピーターの確保に努めていきます。

(3) 臨時開館・閉館及び開館時間の変更

条例上、水族館の休館日は12月29日から翌年1月3日、開館時間は午前9時から午後5時までとなっていますが、多客期の市民サービス及び法定点検等のため、新潟市と協議のうえ、以下の期間について臨時開館・休館、開館時間延長を実施したいと考えています。

- ① 臨時開館（年始）… 2020年1月2日（木）・3日（金）
- ② 臨時閉館（電気設備法定点検等）… 2020年3月5日（木）・6日（金）

③ 開館時間変更

- a. GW… 2019年4月27日（土）～5月6日（祝・月）

開館時間 30 分繰上（8：30～17：00）

- b. 海の日3連休…2019年7月14日（日）・15日（祝・月）

開館時間 30 分繰上（8：30～17：00）

- c. 夏期… 2019年7月27日（土）～8月18日（日）の土曜・日曜日（下記お盆期間を除く）閉館時間1時間繰下（9：00～18：00）

- d. お盆… 2019年8月11日（日）～16日（金）

開館時間 30 分繰上及び閉館時間1時間繰下（8：30～18：00）

（ただし、b～dは予定。4月～7月上旬の入館状況による。）

2 事業の実施に関する業務

(1) 水族館展示基礎部門（常設展示）

500種、20,000点の飼育規模を維持し、科学的配慮のもとに10の展示ゾーンでわかりやすく展示します。展示生物の充実と正確かつタイムリーな情報提供に努め、リピーター、特に年間パスポート利用者に対しても常に新鮮味のある、魅力溢れる常設展示を行います。

① 潮風の風景

サンゴ礁や干潟などさまざまな海岸環境を再現し、そこに生息する生物等を展示します。

② 日本海—大陸と列島に囲まれた海—

日本海に生息する生物等を浅瀬や深場等の環境ごとに分かりやすく展示します。「日本海大水槽解説」では、水生生物や海洋環境に関する知識の普及を目的に、日本海大水槽前で飼育員による解説を実施します。展示生物の紹介、水族館のしくみなど多角的な解説をします。

③ 暖流の旅—黒潮と対馬海流—

日本近海の対馬海流や黒潮域で見られる生物等の展示や、育成室で育成の様子を開示します。

④ 信濃川—多様な陸水環境と魚類—

信濃川流域の多様な環境と水生生物を、擬岩などの造形物や写真、解説パネルなどを用い展示します。

⑤ 体験・学習

アクアラボで生物標本の展示等を行い、「アクアラボ体験」では水生生物に対する知識と理解を深める事を目的に、参加者の年齢や季節感を考慮したテーマで顕微鏡・カメラ・モニターを用いて、観察と解説を行ないます。また、磯の生物に触れることのできる水槽で「磯のいきもの解説」を行い、水槽内の生物を近くで観察することによって、生物の扱い方や、生息環境への理解を深めていただきます。他に開架式ライブラリーの充実に努めます。

⑥ 水辺の小動物

アメリカビーバー、ユーラシアカワウソ、バイカルアザラシ、ラッコといった半水生の水辺に生息する哺乳類を展示します。「ラッコ給餌解説」では餌や生態などを解説します。

⑦ ドルフィンスタジアム

イルカの体のつくり、学習運動能力をショー形式で紹介します。ショーを通じてイルカの形態や生態・能力、ヒトとの関わり、海洋環境保全メッセージなどをわかりやすく伝えます。

⑧ マリンサファリーひれあしの入江—

トド、カリフォルニアアシカ等ひれあし類を展示します。「トドの給餌解説」では他施設ではあまり行われていない、トドの直接給餌によるハンドリングを用いた給餌解説を行ないます。普段はプールの中を泳いでいる体重700kg以上のトドを間近で見させていただき、その大きさを実感してもらうことで野生生物に対する畏敬の念や、環境意識の醸成を図ります。

⑨ ペンギン海岸

フンボルトペンギンを展示します。「ペンギン解説」ではフンボルトペンギンについて解説し、夏期はペンギン海岸プールで餌を与えながら泳ぎ方や餌の捕り方を、秋～春期はペンギン散歩道で陸上での生活の様子等を主に説明します。また、急速に個体数が減少している生息地の現状や、種の保全という立場から長年繁殖に力を入れてきた館の取り組みも解説します。

⑩ にいがたフィールド

新潟市近郊で見られる砂丘湖、田んぼなどを再現し、そこで見られる生物や季節による変化を紹介するとともに、地域の希少生物などの繁殖を目指します。

(2) 啓発・普及部門（企画展示・特別プログラム等）

① にいがたフィールドの「田んぼ」を利用したプログラム（自主事業）

にいがたフィールドの田んぼを利用した4回連続の事前募集型体験プログラムを行います。「田植え（6月）」、「稲刈り・稲架がけ（9月）」、「脱穀（10月）」、「稲わら細工（11月）」を体験することで新潟の陸水環境や稲作について考えるきっかけを提供します。なお、本プログラムは4歳以上を対象とし、幼児対象の環境教育プログラムとしても位置づけられます。

② 野外体験教室（自主事業）

(ア) 川の生き物観察

川の生き物を採集し観察することで、河川環境と人間活動のつながりを考えるきっかけとします。

(イ) スナガニ野外観察会

地先海岸の砂浜に巣穴を作って生活するスナガニの採集や観察を行うことで、多様な生き物を育む砂浜と砂浜の減少について考える機会とします。

③ 講演会（自主事業）

(ア) 大人向け講演会

日本海的环境や水産生物について、第一線の研究者を招聘し講演会を行います。

(イ) 研究者が語る講演会

鯨類研究について、多角的な視点から研究者を招聘し講演会を行います。

④ 各種施設との連携（自主事業）

(ア) 出張展示

他施設・他団体と協力し、指定管理者だけではなしえないサービスや事業を展開します。

(イ) 社会教育施設連携

新潟市歴史博物館との連携プログラムで「水族館で潟普請」を行います。新潟で古くから行われてきた潟普請をにいがたフィールドの砂丘湖と水路・田んぼで体験することで、潟環境の維持管理の方法を学びます。また、水田に生息する生物と人との関わり方について講義で紹介します。

(ウ) 学校教育施設連携

校外学習の受け入れを行います。水に棲む生物や飼育・環境に関する情報を学校からの質問に合わせて、写真や資料を用いて伝えます。

⑤ いきもの教室（自主事業）

水生生物に関する知識の普及と生き物への理解を深めることを目的とした体験型教室を実施します。主たる参加者を子供とその保護者と想定し、季節感も考慮したテーマ設定で、年間10回、原則日曜日に実施します（別紙1）。事前申込により、各回20名程度を募集します。

⑥ 企画展示

「海の危険生物」「新潟の淡水エビ・カニ」など水生生物をテーマに、生体展示に加え、パネルや動画なども活用して詳しい解説を行います。また、当館で撮影した写真を一般応募した「フォトコンテスト」を実施し、「フォトコンテスト受賞作品展」で受賞作品を展示します。

⑦ 参加型イベント（自主事業）

(ア) にいがたフィールドガイド

にいがたフィールドを用い自然環境と希少生物の域外保全を紹介します。季節の変化を感じられるように定期イベントとします。

(イ) スナガニ調査

現在調査を行っているスナガニを、職員が観察や採集方法、体のつくりなどについて解説します。

(ウ) イルカバックヤードミニガイド

イルカバックヤードやイルカステージを解説しながら案内し、飼育の裏側やイルカの生態について伝えます。

(エ) 育成室開放

通常入室することが出来ない本館地下育成室を開放し、簡易解説版を設け職員が会話形式で解説します。

(オ) いきもの絵本読み聞かせ会

アクアラボに設置してある絵本の読み聞かせと、その本に関わる生物についての標本やパネルを使用した解説をします。

⑧ 記念日イベント (自主事業)

(ア) ペンギンの日

1980年4月27日に初めてヒナが誕生してから毎年繁殖を行っていることから、ペンギンの日と題し、普段の展示を見るだけではわからないペンギンの生態や野生の現状について理解を深めてもらいます。

(イ) カワウソの日

ユーラシアカワウソの給餌解説、アクアラボ内にて缶バッチづくり、毛皮の展示、簡単なガイドを実施するほか、カワウソ類のぬりえ等を用意します

⑨ 特別ガイドツアー (自主事業)

「ナイトツアー」を行い、通常見ることのできない閉館後の夜の水槽を観察しながら、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等をツアーガイド形式で解説し、水生生物の生態や自然環境への関心を深めてもらいます。

⑩ 大人向け水族館教室 (自主事業)

「写真教室」を実施します。フォトコンテストとの連携で撮影の工夫について職員がレクチャーし、楽しみの幅を広げます。

(3) 学習・交流部門

① 実習生受け入れ

大学からの要請により、学生に対して生物を対象とする博物館としての特性を指導する博物館実習(単位制)を行います。また、大学や専門学校からの要請により、インターンシップや職業実習を行います。

② 講師派遣

新潟大学理学部附属臨海実験所主催の臨海実習に講師を派遣し、県内の高校生および理科教育関係者に対して、海洋生物の採集や観察、分類に関する指導を行います。また、市内の学校等への出張授業や部活動への支援を行います。

③ 生涯学習のための情報提供

館内での質問、市民からの電話や手紙・メール等による問い合わせに対し、適切で素早い情報提供を行います。他の生涯学習施設との交流・協力を積極的に行うことで、利用者の幅広いニーズに対応できる体制を作ります。他施設との共催による自然教育・環境教育活動等を行います。

(4) 調査・研究部門

① 飼育生物に関する調査研究

魚類や無脊椎動物等、飼育生物の繁殖・育成に取り組むことで、大学等の研究機関と協力し、生物学等の知見の蓄積に貢献するとともに、研究結果等を展示に反映させます。

② 野生水族に関する調査研究 - 地域の自然史に関する知見の蓄積と公開 -

漂着生物の情報を収集し、生態学的・生物学的解明に役立てます。現場で計測と状態の確認、標本採取などを行います。得られた情報及び資料は、展示に反映させます。トゲウオ類、メダカ等地域に分布する水族の生物学的研究を行い、環境教育等に役立てます。

③ 希少水族に関する調査研究 - 繁殖、種保存活動、希少水族の生息域調査、生息域外保全に関する知見の蓄積と公開 -

公益社団法人日本動物園水族館協会の繁殖計画に則し、フンボルトペンギンの生息域外保全（飼育下の繁殖等）に取り組めます。シナイモツゴ、ホトケドジョウ、ハクバサンショウウオの生息域調査を行い、これらの繁殖技術の確立、向上に取り組めます。また、日本鯨類研究協議会の鯨類長期飼育・繁殖推進計画に協力し、鯨類の飼育技術の向上、調査研究に取り組めます。

3 市民ボランティア

市民ボランティアの活動目的を大きく「水族館運営のパートナーとして」「来館者と水族館をつなぐ役割として」「生涯学習の場として」の3つとし、活動の運営を行います。現在約75名が登録していますが、館内のイベントの補助、館内案内、磯の体験水槽解説、職員や来館者との交流等の活動を通して、前記の3つがバランス良く達成できるように努めます。

2019年度は4月中旬頃から5月にかけて新規募集、6月にかけて3回の研修を行い、7月には正式に活動開始するスケジュールを考えています。なお登録後、繁忙期の前に活動強化週間を設けることで新規登録者が継続メンバーと交流を図り不安なく活動が行えるようにサポートします。また、9月にもミーティングを含めた活動強化週間を設けることで、ボランティア同士の交流を図り、あわせて水族館スタッフとの交流を図ることで、より活動しやすい環境の整備を心がけます。

また、ボランティアの自主性をより活性化するために、自発的な活動支援する方法を模索・構築していきます。活動日誌の活用や各係に配置したサポートメンバーと協力することで水族館、来館者、ボランティアの3者が満足できる活動を推進し、持続的なボランティア活動を目指します。

4 他館等との協力

2007年度に友好館提携を結んだ「アクアマリンふくしま」をはじめ、他の水族館・動物園、研究機関等と協力し、生物交換、飼育生物の繁殖や育成に関する情報交換・技術交流などを活発に行っています。また、行政や自然保護団体等と協力し、種の保存や自然保護の啓発に努めていきます。

5 広報・広告宣伝について

各メディアの特性を把握しながら最適な広報・広告宣伝ができるように努めます。

「自社メディア（HPやチラシ・情報誌など）」「ソーシャルメディア」「プレスリリース」「有料広告宣

伝」を4つの柱として行います。

「自社メディア」として、ホームページやチラシ・ポスター・情報誌発行などをおこないます。ホームページは、2018年度にリニューアルしたことを機に、より解りやすい表現やイメージしやすい写真を活用し更新頻度を上げタイムリーな情報を発信します。チラシやポスター・情報誌などの印刷メディアの制作にも力を入れ、館内での掲示や配布だけでなく、小学校や幼稚園・保育園など対象に合わせた紙面づくりと直接配布を行います。

「ソーシャルメディア (Twitter、LINE@、Facebook、Instagram)」、での情報発信を積極的に展開します。展示生物の紹介や一瞬の出来事を写真や動画とともに魅力的に発信するため、展示スタッフによる Twitter 等の運用を進めます。またメディアそれぞれの特性を考慮した情報発信方法を研究し、より効果的になるようにいたします。

テレビや新聞のニュースとして取り上げてもらえるように「プレスリリース」を含むメディアへの情報提供を頻繁に行うことも重要課題と考えています。インターネットメディアでは、新潟市の各部署が展開している SNS ページや観光コンベンション協会運営の観光情報サイト、県内向け情報提供サイトなどへの積極的な情報提供を行い、草の根の広報を進めていきたいと考えています。

「有料広告宣伝」は、これまでの実績をふまえた上で、しかし前例にとらわれすぎることの無いように、効率的、効果的な方法および量になるように実施します。実施利用するメディアは、「テレビ CM (15 秒)」「テレビ番組内コーナー (TeNY わくわくマリンピア)」「ラジオCM (20 秒、5 分コーナー)」「旅行雑誌広告」「タウン情報誌・フリーペーパー広告」「新聞広告」「Web・ソーシャルメディア広告」を想定しています。これらのメディアを限られた予算の中でより効果的にプロモーションできるように、メディア配分、実施時期、地域および客層について計画します。

ターゲットとする地域は、新潟県内を最重要地域とし、県外は主に山形県と福島県に展開します。新潟県内は年間を通してテレビCMとラジオCMを実施します。県外については、山形県・福島県では夏期にかけてテレビCMを実施します。また2020年は開館30周年を迎えるに伴い、新たなCMを3月に新潟県・福島県・山形県で放映することにより、記念の年に新潟市水族館へ足を運びたいとなるような仕掛けを計画します。

6 アンケートの活用

意見箱の設置、館内アンケート・各教室参加者アンケート等を実施することで、来館者の声の収集に努め、その声を検証し、事業実施や事業の改善に役立てていきます。

「館内アンケート」は、満足度を数値化できるような設問を盛り込むことで、各種サービス別に来館者の客観的な評価やニーズの把握に努めます。また、「各教室参加者」等の水族館ファン層に対する「質的」なアンケートの分析などにより、きめ細やかなニーズを把握することで、展示の充実および来館者サービスの向上に努めます。

6 収益事業 (自主事業)

来館者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行います。自動販売機については利益の一部を施設の運営に充て、指定管理料を削減します。

- ① レストラン 1ヶ所・本館2階
- ② 軽食 2ヶ所・屋外、屋上 ※季節・天候により営業中止

- | | | |
|---------|--------------|---------------|
| ③ 移動販売車 | 1ヶ所・アプローチ棟手前 | ※季節・天候により営業中止 |
| ④ 売店 | 1ヶ所・アプローチ棟 | |
| ⑤ 自動販売機 | 17ヶ所・館内各所 | |
| ⑥ ロッカー | 1ヶ所・アプローチ棟 | |
| ⑦ 記念メダル | 2ヶ所・本館1階 | |
| ⑧ プリクラ | 1ヶ所・別館 | |